

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2391100225		
法人名	社会福祉法人 大幸福社会		
事業所名	プレミアムグループホーム フレンズハウス小川 1階		
所在地	名古屋市港区小川一丁目105番地		
自己評価作成日	令和3年8月13日	評価結果市町村受理日	令和3年12月20日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=2391100225-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人あいち福祉アセスメント		
所在地	愛知県東海市東海町二丁目6番地の5 かえてビル 2階		
訪問調査日	令和3年11月12日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ケアプランをはじめ献立や行事、役割などは利用者ご本人様の意見や希望を積極的に取り入れ、ご本人様の望む生活スタイル、リズムに近づけることが出来るように常にご本人様の意見を優先しています。日常生活においても職員と一緒に又は見守りのみで掃除、洗濯、調理等を行う事や、介助についても必要以上の介助を行わず可能な限り見守りや環境整備で自立に近づく事ができるよう毎月処遇会議等で意見を出し合い、実施しています。地域交流につきまして、昨今の状況で可能な範囲で地域のゴミ拾いや積極的な散歩等で地域の方と接触できる機会を設けています。認知症カフェも開設し、より一層多くの地域の方々との交流できる環境を整えています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所の周辺は田畑が広がるのどかな町並みから、道路の拡張や大型ショッピングセンター、商店などが立ち並ぶ街に変化をしている。また、田畑が残る住宅地の一角に事業所があり、近くには同法人の複合型老人福祉施設がある。2階建て、リゾートホテルを思わせるような事業所は開設して4年目を迎え、ユニットはヨーロピアン風と京町風に分かれ、格調高いゆったりとした大人の佇まいを感じる住空間となっている。法人の理念「感謝のおもてなし、優しさ笑顔で、日々感謝の心」を職員間で共有し、入居者が今できることを考え、入居者それぞれに寄り添った支援に努めている。事業所内にユニオンチャイルドとして児童発達支援や放課後デイサービス事業を新たに立ち上げ、地域に貢献している。楽しい食事は、入居者の希望を踏まえながら職員がユニットごとにメニューを立て食事作りをしている。好きなお酒を食事と共に嗜んだり、調味料やお茶タイムなどの嗜好品なども、本人の好みや舌に合うように選択ができるようにしている。また、外国籍のスタッフにより、エスニック風に味付けされた食事も話題となっている。コロナ禍などで踏み止まっている地域との交流や催し物なども状況を見て再開できるように心積もりをしながら支援に努めている。広く明るい雰囲気の間で、趣味の競馬や生け花、本や新聞を読んだり、談笑をしたりして、のんびりとそれぞれの生活スタイルに合わせて過ごしている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	会議等で毎回理念を共有し、常に意識できるようにしている。	法人の理念の「感謝のおもてなし、優しさ笑顔で、日々感謝の心」を各ユニットに掲示し、確認できるようにしている。処遇会議やカンファレンス等で理念を復唱し、行動の指針として日々のケアを振り返りながら実践に努めている。	開設して4年目を迎えるにあたり、職員が目指したい事業所の雰囲気作りや支援の方法、地域と繋がるための取り組みなど職員一人ひとりが向上心を持って取り組める目標や意思の統一を目指し、日々の実践に役立てることを願い、法人の理念に基づいた事業所独自の行動指針などを作成されることを期待したい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	散歩、地域のゴミ拾い、運営推進会議、認知症カフェ等で地域と交流、情報共有している。	法人と事業所共に町内会に加入し、地域の福祉や防災の拠点となっている。コロナ禍ではあるが、回覧等で得た情報を基にタイミングや感染対策をしながら、地域防災センターでの防災訓練や神社の行事などに参加している。事業所内の認知症カフェの拠点地にユニオンチャイルドとして児童発達支援や放課後デイサービス事業を立ち上げている。認知症カフェは多目的室に移し、現在は状況を見ながら開催をしている。子ども110番の家や小・中学校・保育園などとの交流は、再開や実施を考慮している。日々の散歩で行き交う地域の方々との挨拶を交わしたり、地域のごみ拾いは継続して行っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症カフェを開設し、地域の方と交流できる機会を設け、浸透するための広報や情報公開をいきいき支援センターと協力して行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	町内代表者やいきいき支援センター、各事業所と情報共有し意見やアドバイス等をもらい、サービスに反映している。	地域の代表者や地域包括支援センター職員、生活相談員、認知症対応型共同生活介護について知見を有する方の参加を得て年6回、新型コロナの感染状況に応じて書面開催も取り入れながら開催している。参加者からの情報や意見、提案等は会議の中で聴取したり、書面開催時はファックスや電話で聴取し、職員会議などで協議してサービスの向上に活かしている。議事録は玄関にファイリングし自由に閲覧できるようにしている。家族の参加が難しく、参加者が限られている。	運営推進会議が、家族や地域、行政との情報の交換やサービスの向上に繋がる機会であることを入居者家族に知っていただくために、フレンズ通信などに運営推進会議の案内や内容を記載して発信したり議事録を送付したりして内容を理解していただき、より多くの家族の参加が得られることを願いたい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	町内やいきいき支援センターと情報共有し緊急時や災害時を含めての協力依頼をしている。	新型コロナ感染予防の観点からメールやファクスなど書面での連絡が多くなっているが、介護保険更新手続きや事故報告など必要な手続きや報告には出向いている。名古屋介護ネットを毎日確認し連携を図っている。リモートを利用して研修を行っている職員もいるが、今まで中止となっていた行政の研修が開催され、参加する予定にしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止委員会を定期的に開催し、現状の把握や方法などを共有している。身体拘束についての内部研修も定期的実施し、無意識な拘束をしてしまわないよう意識付けを行い、玄関についても安全の範囲内で自由に出てもらっている。	身体拘束適正化委員会は3か月に1回、感染予防対策をしながら分散して開催し、会議等で検討して周知している。問題は話し合っただけで拘束感の無いケアに取り組み、言葉の拘束や心の拘束に留意している。施設内は自由に歩き来し、拘束感のない環境を整えている。研修も定期的に行われ技術の向上に努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払	虐待防止委員会を定期的に開催し、現状の把握や温床の早期発見などに努めている。内部研修も定期的開催し、ストレスチェックや業務の見直しもしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部での研修を定期的に行い、権利擁護について等を学ぶ機会を設けている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	説明を行い、わかりにくい部分については専門用語を使わずに言葉や文書で説明している。改定時などについても都度説明をし同意を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者様、ご家族様からは常に意見、要望、希望があれば積極的に取り入れ、施設側の都合を押し付けないよう努めています。	入居者からは日常のケアの中から聴取し、家族からは面会時等に意見や要望を聞いている。また、毎月管理者は家族と電話やラインを利用して情報交換をしている。要望は出来る限り迅速に対応し反映できるように努めている。得た情報は職員ノートに記録しケアに活かしている。コロナ禍で面会が規制されていたが、現在は予約制で感染対策をして制限なしの面会が可能となっている。フレンズ通信を2か月毎に発行し家族の安心につなげている。意見箱の設置をしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	経験や勤続年数など問わずに全職員からの意見やアイデアなどは、積極的に取り入れ、反映に向けて職員間で協議します。	月1回の処遇会議や日々の申し送り時など、職員が意見を出しやすい環境作りに努めている。より詳しい職員の意見や要望等を得るために、職員アンケートを実施し職場環境や処遇改善に役立てている。外国籍の職員や経験の浅い職員が多いため、管理者は目配り、気配りを欠かさず職員の意見に耳を傾け運営に反映させると共に職員育成に努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	2019年に法人内で給与改定があり、個々の経験に基づいた金額が支給されます。また、残業0を目指し計画的に業務に取り組み、担当業務や担当利用者を持つことでやりがいを感じてもらいます。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	認知症対応施設として内部では個々に対応方法などの教育を行い、外部の研修なども利用して認知症に関する知識や理解を深めています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内や他グループホームと情報共有しサービスの質の向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人様には入居前に面談を行い生活スタイルや人間関係や食べ物の好み、趣味などを伺い職員と予め共有します。その後はそれらのデータに基づいて不安時などの会話に活用し安心を得てもらえるよう努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様からもご本人様について事前に面談に同席して頂き性格や人間関係などの好みをお聞きし、希望や要望などがあれば積極的に反映しています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	現状把握し、ご家族やご本人様の必要としているサービスを検討し、必要に応じて、適切なサービスの提案や法人内のサービスをご紹介します。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家族とお客様の中間を意識した接遇を意識し、実践している。食事をはじめ「利用者様と一緒に」を常に全員出来るよう取り組んでいる。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様にはご面会や受診、買い物などご本人様の身の回りの事をお願いしご家族様と共にご本人様を支援しています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	電話、郵便などを希望の場合は利用して頂いています。ご本人宛の郵送物なども直接ご本人様にお渡ししています。	フェイスシート等で情報を得たり、日々の会話から大切にしてきた人や場所を把握し、継続できるように努めている。希望があれば墓参りや外泊等支援をしているが、コロナ禍で踏み止まっている。図書館で借りた様々な分野の書籍で、読書のできる環境を整え今できる支援に努めている。趣味の生け花や歌、競馬、電話、手紙等の支援や食事の手伝い、洗い物など日常の家事仕事を通して今まで培ってきた経験を日常に生かしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士の相性や好みを把握し、声掛け等を行っている。座席等の定位置についても孤立しないよう相性などを考え必要に応じて改善している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要に応じて情報提供や現状などの連絡を行い、サービス終了後も関係が継続できるよう努めています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	可能な範囲で、常にご本人様に希望や要望をお聞きし反映している。またケアプランについてもご本人様の希望、要望をお聞きし目標や方法などに反映している。	日常の入居者とのさりげない会話や表情などをケアの中から感じ取ったり、入居者の気持ちに寄り添い、入浴時やちょっとした時間に思いや希望を丁寧に聞くようにしている。思いの表出の少ない方には、気長に待ちながら、うなづきや表情の変化がみられるまで丁寧に対応するよう努めている。ビール(ノンアルコール)や喫煙の支援にも対応している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人様やご家族様から暮らし方や好みなどについてお聞きしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎月の処遇会議やその都度現状を把握できるように情報共有し必要に応じて問題点を改善している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人にも意見や希望、要望をお聞きし、フロアでの会議内でプランについて議論しています。	毎月のケアカンファレンスで居室担当者を交え情報交換を行っている。3か月毎にモニタリングを行い、往診時の意見も反映させて計画の見直しをしている。居室担当者を中心に、本人の希望や家族の意向等踏まえながら、医療関係者などの意見も参考にして、現状に即した介護計画を作成している	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の記録を職員間で共有し、問題点等は改善に向けて職員間で話し合い、介護計画にも反映させている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	可能な範囲でのサービス内容の調整や変更を、利用者様やご家族様のニーズに合わせて対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	必要に応じてご本人様と一緒に買い物やご家族様との外出、外食などを行っています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人様やご家族様のご希望に応じて受診してもらっています。	入居時にかかりつけ医か協力医かの希望を聞いている。かかりつけ医や専門医の場合は基本的に家族の協力を得ている。受診結果は家族から情報を得て記録、周知ケアに活かしている。内科往診が月2回、歯科は月1回、訪問看護が月2回あり入居者の健康管理に努めている。必要に応じ皮膚科や眼科の往診も受けられる。24時間の医療連携を取り、迅速で適切な医療が受けられるように支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	定期往診時での相談や、急な体調変化にはすぐに相談や指示が出る体制を築いています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時には医療機関と密に連絡を取り、その状況や体調についての会議を行い、受入から入院前の状態に回復するまでの計画を立て、実施しています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	管理者の判断で共同生活に支障が出ると判断した場合はご本人様やご家族様と相談し法人内の適切なサービスなどをご紹介します。	契約時に、重症化や終末期に向けた事業所の方針を説明し同意を得ている。事業所として看取りを行わない方針であったが、今年度から重度化する可能性がある場合や状況が変化した場合は入居者や家族の希望があれば看取りを行う方向にある。また、特養や病院の医師、看護師などと話し合いながら、最善の援助ができるように努め、可能な限り希望に添った支援に努めるよう準備をしている。職員はターミナルケアの研修を予定している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	外部の急変時対応の研修を受講しているが、一部の職員であり順次受講する予定。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に火災や津波に対応した避難訓練を行っている。	年2回消防署員の立会いの下、災害訓練を行っている。夜間帯の職員体制での火災を想定した、通報や避難訓練を行っている。津波を想定した訓練では消防署員による指導の下、実施している。同法人の施設と地域が共同で行う災害訓練や地域防災センターで行われる訓練には入居者と共に参加し協力関係を築いている。備蓄品は水や食料等3日分とラジオ、ヘルメット、ビニール袋等を準備しているがリストや保管場所の周知、確認までには至っていない。	備蓄品をリスト化し、数量や保管場所の確認など訓練時に抱き合わせるなどして職員に周知し管理されることを願いたい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	声掛けの方法や対応方法には適時指導し、利用者様の人格を尊重した対応をしている。	人生の先輩として対応することを基本姿勢とし、ひとり一人の人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけに留意した対応に心掛けている。事業所独自のマニュアルを作成し、新任研修や施設内の研修、身体拘束委員会などで職員に周知し声掛けや対応などの方法を伝え、無理強いない暮らし方と個人の性格に配慮した支援に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様の希望や要望は可能な範囲内で最大限取り入れ、ご自身に決定してもらっている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な共同生活でのルールや時間は設けているが、ご本人様の希望や要望に沿って柔軟に対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人様の希望や要望に沿った衣類などを選択してもらっている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事についての希望を聴取し、反映している。準備についてもご利用者様の希望の範囲内で一緒に行っている。	入居者の希望を踏まえながら職員がユニットごとにメニューを作成し、栄養士の資格を持つ職員が栄養価をチェックしている。食材は配達業者を利用している。入居者専用の意見箱を利用して希望をふんだんに取り入れたメニューで提供している。季節感のある食材や菜園で収穫した野菜を彩に加えたり、バーベキュー、流しそうめん、お餅、たこ焼き、たませんなど五感で食を楽しむ工夫をしている。職員も一緒に食卓を囲み食材の硬さや味付けなどのチェックをしている。入居者は保有能力を活かしながら食事の準備や後片付けなど自発的に行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	ご本人様の身体の状態に合わせ、量や固さなどを調整している。水分も細かく分割し提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	ご利用者様には口腔ケアをご自身で行えるように声掛けや一部介助を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	タイミングやパターンを見計らい、定期的に声掛けや一部介助を行い、トイレでの排泄を促している。	排泄チェック表を基に個々のタイミングに合わせた声掛けやさりげない誘導を行っている。自立している方は、自分のタイミングをさりげなく見守るようにしている。車いす使用で夜間はオムツ使用の方も昼間はトイレでの排泄を支援している。便秘予防には食べ物や運動、水分摂取を勧め、出来るだけ自然排便を促す配慮をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	定期的に排便できるように、下剤に頼らず自然排便を意識した食事や運動を取り入れている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	順番に声はかけているが、利用者様の希望や要望を取り入れて入浴のタイミングを決めてもらっている。	入浴は2日に1回、入居者の体調を考慮しながら支援をしている。朝9時から湯張りをしていつでも好きな時間に入浴できる準備をし、希望があれば毎日の入浴にも対応している。湯はひとり一人取り換え、足ふきマットも交換して清潔に留意している。シャンプーは好みの物を個々に使用している。季節を感じる柚子湯、菖蒲湯や入浴剤なども利用して楽しんでいる。入浴を拒む方には誘い方や誘導の仕方を工夫しながら支援に努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご本人様の希望や要望に応じて柔軟に対応し、環境整備等を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内部研修にて薬の副作用について説明し、症状についての変化を常に確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者様の希望や要望に柔軟に対応し、可能な範囲で提供、付き添い、支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望があった場合にはご家族様などと相談し、計画的に対応し支援している。	豊かな自然環境に恵まれ、四季の移ろいを感じながら毎日散歩に出掛けられる環境にある。花や菜園の水やりや収穫を通して外気にふれる機会を持つようにしている。コロナ禍により踏み止まっている買い物ツアーやドライブ、外食などの外出支援は家族と相談し、状況を見ながら再開していく方向にある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族様やご本人様と相談し、金銭管理の方法を決めている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望や要望に応じて、連絡手段を提供し、柔軟に対応している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	希望や要望に応じて環境整備し、利用者様同士が納得できるよう支援、配慮している。	1階のヨーロッパ風と2階の京町風で各ユニットの設えを変えている。居間は明るく風通しの良いゆったりとした大人の空間となっている。コロナ禍の折、窓を開け空気の流れに気を配りながら温度、湿度を適宜に保ち、不快な音や光に配慮した環境を整えている。掃除も出来る方は職員と一緒にやっている。余暇の時間には新聞や読書、脳トレゲームや職員と談笑したり、ソファで寛いだりして自由な時間を過ごしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居場所の強要はせず、ご本人様の希望や不満を聴取し、快適に過ごせるよう支援している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	今までの住み慣れた生活環境に近づけるよう、ご本人様やご家族様と相談し、対応している。	入居時に家族と相談して使い慣れたベットや家具、カーペット、仏壇などを持ち込み、好みのカーテンを掛けて自分らしい生活空間としている。趣味の小物や家族の写真、手作り作品などを飾り安心して暮らせる環境を整えている。掃除も行き届き清潔な部屋となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ご利用者様の心身の状況などの理解に努め、必要以上の支援はせず、自立できるように環境整備や見守り、声掛けで支援している。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2391100225		
法人名	社会福祉法人 大幸福社会		
事業所名	プレミアムグループホーム フレンズハウス小川 2階		
所在地	名古屋市港区小川一丁目105番地		
自己評価作成日	令和3年8月13日	評価結果市町村受理日	令和3年12月20日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=2391100225-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人あいち福祉アセスメント		
所在地	愛知県東海市東海町二丁目6番地の5 かえてビル 2階		
訪問調査日	令和3年11月12日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ケアプランをはじめ献立や行事、役割などは利用者ご本人様の意見や希望を積極的に取り入れ、ご本人様の望む生活スタイル、リズムに近づけることが出来るように常にご本人様の意見を優先しています。日常生活においても職員と一緒に又は見守りのみで掃除、洗濯、調理等を行う事や、介助についても必要以上の介助を行わず可能な限り見守りや環境整備で自立に近づく事ができるよう毎月処遇会議等で意見を出し合い、実施しています。地域交流につきまして、昨今の状況で可能な範囲で地域のゴミ拾いや積極的な散歩等で地域の方と接触できる機会を設けています。認知症カフェも開設し、より一層多くの地域の方々との交流できる環境を整えています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所の周辺は田畑が広がるのどかな町並みから、道路の拡張や大型ショッピングセンター、商店などが立ち並ぶ街に変化をしている。また、田畑が残る住宅地の一角に事業所があり、近くには同法人の複合型老人福祉施設がある。2階建て、リゾートホテルを思わせるような事業所は開設して4年目を迎え、ユニットはヨーロピアン風と京町風に分かれ、格調高いゆったりとした大人の佇まいを感じる住空間となっている。法人の理念「感謝のおもてなし、優しさ笑顔で、日々感謝の心」を職員間で共有し、入居者が今できることを考え、入居者それぞれに寄り添った支援に努めている。事業所内にユニオンチャイルドとして児童発達支援や放課後デイサービス事業を新たに立ち上げ、地域に貢献している。楽しい食事は、入居者の希望を踏まえながら職員がユニットごとにメニューを立て食事作りをしている。好きなお酒を食事と共に嗜んだり、調味料やお茶タイムなどの嗜好品なども、本人の好みや舌に合うように選択ができるようにしている。また、外国籍のスタッフにより、エスニック風に味付けされた食事も話題となっている。コロナ禍などで踏み止まっている地域との交流や催し物なども状況を見て再開できるように心積もりをしながら支援に努めている。広く明るい雰囲気の間で、趣味の競馬や生け花、本や新聞を読んだり、談笑をしたりして、のんびりとそれぞれの生活スタイルに合わせて過ごしている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	会議等で毎回理念を共有し、常に意識できるようにしている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	散歩、地域のゴミ拾い、運営推進会議、認知症カフェ等で地域と交流、情報共有している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症カフェを開設し、地域の方と交流できる機会を設け、浸透するための広報や情報公開をいきいき支援センターと協力して行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	町内代表者やいきいき支援センター、各事業所と情報共有し意見やアドバイス等を受け、サービスに反映している。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	町内やいきいき支援センターと情報共有し緊急時や災害時を含めての協力依頼をしている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止委員会を定期的開催し、現状の把握や方法などを共有している。身体拘束についての内部研修も定期的実施し、無意識な拘束をしまわぬよう意識付けを行い、玄関についても安全の範囲内で自由に出してもらっている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止委員会を定期的開催し、現状の把握や温床の早期発見などに努めている。内部研修も定期的開催し、ストレスチェックや業務の見直しも行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部での研修を定期的に行い、権利擁護について等を学ぶ機会を設けている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	説明を行い、わかりにくい部分については専門用語を使わずに言葉や文書で説明している。改定時などについても都度説明をし同意を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者様、ご家族様からは常に意見、要望、希望があれば積極的に取り入れ、施設側の都合を押し付けないよう努めています。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	経験や勤続年数など問わずに全職員からの意見やアイデアなどは、積極的に取り入れ、反映に向けて職員間で協議します。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	2019年に法人内で給与改定があり、個々の経験に基づいた金額が支給されます。また、残業0を目指し計画的に業務に取り組み、担当業務や担当利用者を持つことでやりがいを感じてもらいます。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	認知症対応施設として内部では個々に対応方法などの教育を行い、外部の研修なども利用して認知症に関する知識や理解を深めています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内や他グループホームと情報共有しサービスの質の向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人様には入居前に面談を行い生活スタイルや人間関係や食べ物の好み、趣味などを伺い職員と予め共有します。その後はそれらのデータに基づいて不安時などの会話に活用し安心を得てもらえるよう努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様からもご本人様について事前に面談に同席して頂き性格や人間関係などの好みをお聞きし、希望や要望などがあれば積極的に反映しています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	現状把握し、ご家族やご本人様の必要としているサービスを検討し、必要に応じて、適切なサービスの提案や法人内のサービスをご紹介します。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家族とお客様の中間を意識した接遇を意識し、実践している。食事をはじめ「利用者様と一緒に」を常に全員出来るよう取り組んでいる。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様にはご面会や受診、買い物などご本人様の身の回りの事をお願いしご家族様と共にご本人様を支援しています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	電話、郵便などを希望の場合は利用して頂いています。ご本人宛の郵送物なども直接ご本人様にお渡ししています。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士の相性や好みを把握し、声掛け等を行っている。座席等の定位置についても孤立しないよう相性などを考え必要に応じて改善している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要に応じて情報提供や現状などの連絡を行い、サービス終了後も関係が継続できるよう努めています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	可能な範囲で、常にご本人様に希望や要望をお聞きし反映している。またケアプランについてもご本人様の希望、要望をお聞きし目標や方法などに反映している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人様やご家族様から暮らし方や好みなどについてお聞きしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎月の処遇会議やその都度現状を把握できるように情報共有し必要に応じて問題点を改善している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人にも意見や希望、要望をお聞きし、フロアでの会議内でプランについて議論しています。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の記録を職員間で共有し、問題点等は改善に向けて職員間で話し合い、介護計画にも反映させている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	可能な範囲でのサービス内容の調整や変更を、利用者様やご家族様のニーズに合わせ対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	必要に応じてご本人様と一緒に買い物やご家族様との外出、外食などを行っています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人様やご家族様のご希望に応じて受診してもらっています。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	定期往診時での相談や、急な体調変化にはすぐに相談や指示が出る体制を築いています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時には医療機関と密に連絡を取り、その状況や体調についての会議を行い、受入から入院前の状態に回復するまでの計画を立て、実施しています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	管理者の判断で共同生活に支障が出ると判断した場合はご本人様やご家族様と相談し法人内の適切なサービスなどをご紹介します。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	外部の急変時対応の研修を受講しているが、一部の職員であり順次受講する予定。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に火災や津波に対応した避難訓練を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	声掛けの方法や対応方法には適時指導し、利用者様の人格を尊重した対応をしている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様の希望や要望は可能な範囲内で最大限取り入れ、ご自身に決定してもらっている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な共同生活でのルールや時間は設けているが、ご本人様の希望や要望に沿って柔軟に対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人様の希望や要望に沿った衣類などを提供している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事についての希望を聴取し、反映している。準備についてもご利用者様の希望の範囲で一緒に行っている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	ご本人様の身体の状態に合わせ、量や固さなどを調整している。水分も細かく分割し提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	ご利用者様には口腔ケアをご自身で行えるように声掛けや一部介助を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	タイミングやパターンを見計らい、定期的に声掛けや一部介助を行い、トイレでの排泄を促している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	定期的に排便できるように、下剤に頼らず自然排便を意識した食事や運動を取り入れている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	順番に声はかけているが、利用者様の希望や要望を取り入れて入浴のタイミングを決めてもらっている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご本人様の希望や要望に応じて柔軟に対応し、環境整備等を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内部研修にて薬の副作用について説明し、症状についての変化を常に確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者様の希望や要望に柔軟に対応し、可能な範囲で提供、付き添い、支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	希望があった場合にはご家族様などと相談し、計画的に対応し支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族様やご本人様と相談し、金銭管理の方法を決めている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望や要望に応じて、連絡手段を提供し、柔軟に対応している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	希望や要望に応じて環境整備し、利用者様同士が納得できるよう支援、配慮している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居場所の強要はせず、ご本人様の希望や不満を聴取し、快適に過ごせるよう支援している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	今までの住み慣れた生活環境に近づけるよう、ご本人様やご家族様と相談し、対応している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ご利用者様の心身の状況などの理解に努め、必要以上の支援はせず、自立できるように環境整備や見守り、声掛けで支援している。		